

知的障害 小学校

忍者になるんじゃ！？

生活、国語、図画工作、体育、自立活動	遊びの指導：(特)生活、(特)国語、図画工作、 体育、自立活動
実態 ・友達と一緒に遊ぶことが少ない ・「～したい」と気持ちを表現することが少ない	目標 ・友達や仲間と活動を楽しむ事ができる ・身近な人に自分の願いや気持ちを伝えることができる
実践 <ul style="list-style-type: none"> ・グループで話し合いながら、忍者になるために必要な動きや運動を考え、サーキットのコーナーを作る ・体育館にある用具で足りない物は自分たちで工夫して作る (道具、看板、説明文など) ・コースを試している様子をタブレットPCで撮影し、その映像を見る時間を設けることで「どうしたらもっと良いものになるか」について話し合い、コースの改良や工夫を重ねる ・各コーナーの担当グループから遊ぶポイントの説明を聞き、約束を守って「忍者修行」を楽しむ ・各時間の終わりに活動を振り返る <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 道具などが足りないときに、教員から声をかけるのではなく、児童から言うようにする </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 児童が自分の気持ちに気付いたり、頑張ったところを発表したりすることができるように、「どのコースが好きだった?」「できなくて悔しかった?」「自分が考えたところはどこ?」「うまくいったところはどこ?」と教員が質問する </div>	
担任の願い <ul style="list-style-type: none"> ・感覚統合の視点を取り入れたダイナミックな活動を中心にする事で、一人一人の活動量を保障する ・児童が主体的に取り組もうとする仕掛けづくりをすることで、活動を通して良好なコミュニケーションの力を育てる ・縦割り班での活動を設定することで、上級生としての責任感を育み、児童が友達や仲間に伝えたり、説明したりする力を身に付けられるようにする ・ICT機器を活用することで、児童が自分の活動を振り返り、自己理解を進めることができるようにする 	

知的障害 中学校

電車に乗って出かけよう

国語、社会、数学、特別活動、自立活動	生活単元学習：(小)国語、(小)社会、(小)算数、 特別活動、自立活動
実態 ・公共施設や公共交通機関を利用する経験が少ない ・自分の経験や思いを話すことができない	目標 ・電車の利用の仕方が分かる ・困ったときに質問したり、自分の経験をまとめて発表したりすることができる
実践 <ul style="list-style-type: none"> ・事前学習をした上で、校外学習を行う 電車利用のときの困ったエピソードや対応について知り、解決するための方法を考える 切符を買って、ホームでの待機場所や順番など確認し、安全に待つ 気になったところ、知って欲しいところを自分で写真に撮る ・事後学習としてまとめたり、発表したりする 紙面でまとめるか、パソコン等を使ってまとめるかを選び、路線図や地図、撮影した写真を使って振り返りを行う <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 駅員さんに何をどう伝えたらいいかを考える 自分の住所や連絡先を言うか、メモを見せる住所等を忘れたときや、困ったときに生徒手帳を活用する </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 構内放送がかかった時に意識できるかどうか、聞き取りの力や短期記憶の力についても、把握しておく </div>	
担任の願い <ul style="list-style-type: none"> ・教室での学習を実際の生活場面で生かしたか、次の課題は何かなど、生徒自身が気付けるようにする ・電車の利用以外にレストランやビュッフェの利用など、実際の経験を重視した授業の計画を立てることで社会経験を広げたり、余暇活動の充実を目指したりする等、将来の生活を豊かにすることにつながる 	

知的障害 中学校

朝の会

保健体育、特別活動、自立活動	(特)保健体育、特別活動、自立活動
実態 <ul style="list-style-type: none"> ・教員の言葉がけがあると次の行動をしたり、身だしなみを整えたりすることができる ・友達と遊ぶ経験が少ない 	目標 <ul style="list-style-type: none"> ・予定が分かり自ら行動できる ・自ら身だしなみを整えることができる ・余暇活動を広げる
実践 <ul style="list-style-type: none"> ・一日の予定確認（授業、教室など）をする ・身だしなみの確認をする 確認用紙を見て、姿見や手鏡を使って、ペアになってなど ・トーキングタイム ・集団でするゲーム（ボードゲーム、カードゲーム等）を楽しむ どのゲームをするか、相談して決める <p>顔を見ながらのゲームは声のかけ方や感情をコントロールすることなどを学べる機会である</p>	<p>昨日のできごと、見たテレビの話題、出かけた場所など、時間を決めて話し、質問し合う</p> <p>やり方を教え合う、順番を守る、次の人に声をかける、負けても大丈夫と思えるなどの経験をする</p>
担任の願い <ul style="list-style-type: none"> ・毎日1時間目に生徒が特別支援学級に集まり、一斉に指導を受けられるように場面を設定する ・生徒自身が、相手にどのように見られているのかを気付き、身だしなみを整えられるようにする ・生徒が話したいことや聞いてほしいことを話し、質問し合うことを通じて、交流学級でのスピーチの時間に活用できるようにする。また、働くときに同僚との会話に活用できるような力を育てる ・生徒が仲間と安心して過ごせる経験を重ねて、休み時間や休暇中の過ごし方など余暇活動の充実が図られるようにする 	

知的障害 中学校

調理実習をしよう

国語、数学、技術・家庭、自立活動	作業学習：(小)国語、(小)算数、(特)職業・家庭、自立活動
実態 <ul style="list-style-type: none"> ・生徒同士での話し合い活動の経験が少ない ・現在は保護者が食生活の管理を行っている 	目標 <ul style="list-style-type: none"> ・生徒同士で話し合いをして課題解決ができる ・バランスの良い献立を考えることができる ・報告・連絡・相談ができる
実践 <ul style="list-style-type: none"> ・三色食品群について学習し、バランスの良い食生活について考える ・パソコンや図書室等を活用して献立を考える ・それぞれ、考えた献立について話し合いをして今回作る献立を決める ・予算内に収まるようにチラシを参考にして、購入する食材や個数を買物シートに記入する ・担当を決めてお店で買物を行う ・調理実習を行う（同じメニューを2回繰り返す） 1回目：役割分担をして…「ほう・れん・そう」がキーワード 2回目：一人で…「困ったときにはHELP」がキーワード 	<p>話し合いの手順やポイントを示しておく</p> <p>生徒の実態を考えて、プリントに書く（枠の大小や項目名の有無）かタブレットPCでまとめるかなどの複数の方法を準備し、生徒が選べるようにする</p>
担任の願い <ul style="list-style-type: none"> ・教室での学習と実際の生活場面での行動を見て、生徒の課題（お金の扱い、商品の分類、コミュニケーション、援助スキルなど）を明確化する ・買う商品がないとき、商品の場所が分からないときなど、想定外の場合にも生徒自身が対応できる力を育む ・生徒が健康的な生活を送るための基礎となる力を付けられるようにする 	